

# 共生型ものづくり産業に挑む ～栃木発町工場の決断～

## 特別対談



株式会社アオキシントック

代表取締役 CEO

青木 圭太

株式会社リバネス

代表取締役 グループ CEO

丸 幸弘

栃木県真岡市に本社を有する機械部品加工の町工場「株式会社青木製作所」。栃木から世界へ羽ばたくことを目指し、2020年3月、株式会社アオキシントックへと社名変更した。企業理念も、「共生型ものづくり産業に挑む」と大きくブランドを一新し、ものづくりにおけるこれまでの産業構造のアップデートを図ろうとしている。社名と理念に込められた青木氏の真意とは何か。

**青木** 青木製作所は現在の会長である父親が脱サラして1990年に創業しました。もともと、自動車メーカーの機械補修・保全・オーバーホー

ルを中心に事業を開始し、数年後から新事業として機械部品加工を手がけています。他社にはできない小ロット・超短納期の案件に特化して売

上を伸ばしてきました。

**丸** 大手からの継続受注も含めて案件の質も数も向上し、売上も30億円規模まで順調に拡大してきたと思うのですが、まもなく創業30周年を迎えるこのタイミングで、社名と理念を変えたのにはどういう経緯があったのですか？

**青木** 町工場は大廃業時代に突入したといわれていますよね。これまでは大量生産・大量消費の中、いわゆる大手メーカーからの下請けと呼ばれる位置付けでものづくりをしてきました。でも、いまは世の中の指向が利便性の追及や物質的な欲求とは違う方向に動き始めていると思います。自動車業界から町工場への発注が減少していることが、それを如実に反映している事例ではないでしょうか。うちの工場も去年あった十数億円の売上がいきなりなくなる可能性もある。これまでと同じやり方ではダメだという危機感から丸さんに相談しました。

**丸** そうですね。日本のように経済が成熟した社会においては、もはや豊かさの概念が変わっていきます。



地球上の限りある資源を取り合う活動はいずれ破綻しますから、GDPという指標ではなく、別の価値計測基準が生まれつつあると考えています。私は「マチュアグロース」という考え方を提唱していて、物質的・金融的な豊かさが幸せに直結しないことに気づいた人たちが、感性を通じた心の豊かさを成長させ、幸せの総和を拡大していくのです。

**青木** 町工場のあり方も時代や人の変化に対応しなければなりません。このまま大手メーカーから流れてくる物量に頼るのではなく、自らが新しい産業を創る立場になろうと。そのとき、青木製作所の原点に立ち戻ったのです。もともとは部品加工ではなく、機械の補修・保全・オーバーホールという持続可能なものづくりからスタートした会社ですから、その根底にある魂を大事にしたいと思いました。

**丸** それで共生型ものづくりという言葉がアオキシテックの理念になったのですね。

**青木** はい。実は社名のシンテックは英語で「SYMTECH」と表しますが、SYMは共生を意味するsymbiosisに因んでいるのです。他の町工場同士はもちろんのこと、大学やベンチャー、異業種の企業など、多様な機関との連携をさらに強化して、ものづくりを中心としたエコシステムを創っていきたいという思いを込めました。

私が社長に代替わりした時に、お客様とのコミュニケーションを重要タスクとして設定し、ニーズに応える技術力とスピード力を確保するため



に、ときには協力工場に技術提供もしながら丁寧に共生関係を築いてきました。この強みがあるからこそ、アオキ単体ではなく、企業群の力でコミュニケーション力と技術力を生み出すことができていると思っています。

**丸** 青木さんは宇都宮大学ロボティクス・工農技術研究所の中に、ベンチャーのインキュベーション施設「Garage Tochigi (ガレージトチギ)」も運営していますよね。栃木県内の高校、高専、専門学校、短大、大学生を対象にしたビジネスプランコンテスト「とちぎアントレプレナー・コンテスト」も立ち上げて、次世代の技術や人材育成にも熱をもって取り組んでいらっしゃいます。

**青木** はい。こういった活動を通じて、既存の町工場では接点を持たなかったような人や技術も育て、町工場を中心とした新たな生態系をつくることで、大手から下請けという産

業構造を変えられると信じています。

**丸** いま日本のものづくり技術は、東南アジアからもかなり注目されています。技術力は一流であることは間違いありませんから、青木さんのようなマインドをもった経営者がさらに増えて、単なる製造業ではなく、世界の知識を日本に集めて新たなアイデアや技術を生み、実際にプロダクトとして形にする「知識製造業(※)」をリバネスと一緒に広げてほしいです。

日本の中小企業はまだまだ生まれ変わる底力がありますから、日本のものづくりはこれからが楽しみです。

※知識製造業とは

リバネスが営む業種。世界から研究者や技術者、経営者の知識を集め、自ら新しい知識を生みだし、社会課題の解決に向けて自ら実装する。アイデアを単に出すだけではなく、実際に実装(試作・製造)まで行う。